

テーマ: 口腔癌におけるPET検査を用いた腫瘍悪性度評価の試みと頸部リンパ節転移に対する正診率向上に関する研究

標語: PET検査で口腔癌治療を向上させる

目的: 口腔癌におけるPET検査を用いた腫瘍悪性度評価の試みと頸部リンパ節転移に対する正診率向上を目指す。

意義:

口腔癌の予後規定因子

原発巣の完全切除
頸部リンパ節の制御

頸部リンパ節の制御における現状と対策

- ① 原発巣の高悪性病変では頸部リンパ節転移や遠隔転移のリスクが高い。 **悪性度評価**
- ② 頸部リンパ節転移診断困難例に対する予防的頸部郭清術は予後を改善する一方、QOLも低下させる。 **リンパ節転移の正診率向上**

研究成果:

- ① 原発巣のPETによる **悪性度評価** は転移予測が可能となり、**予後改善** に繋がる
- ② PETによる頸部リンパ節転移 **正診率向上** は **予後とQOLを改善** する。

研究の広がり: **ステークホルダー: 附属病院通院中口腔がん患者**
口腔癌患者の予後向上とQOLを改善

PETにおける原発巣の悪性度評価やリンパ節転移正診率向上の解明は将来的に他部位癌の正診率向上やPETによる質的診断にも応用できる可能性がある。

評価指標

最終(長期)目標: 生存率の向上、**中期目標:** PETによる **悪性度評価** や **検査正診率向上**
目標達成のために: 手術検体によるリンパ節転移の正診率の確認、後発リンパ節転移の評価

がんの制圧は人類の夢である。
がん制圧には集学的な研究・治療体制の構築が必要である。
本学では治療体制には制約があるが、診断においては様々な専門家が在籍する。
基礎と臨床の融合、分野・講座横断的な研究でがん制圧を目指す。

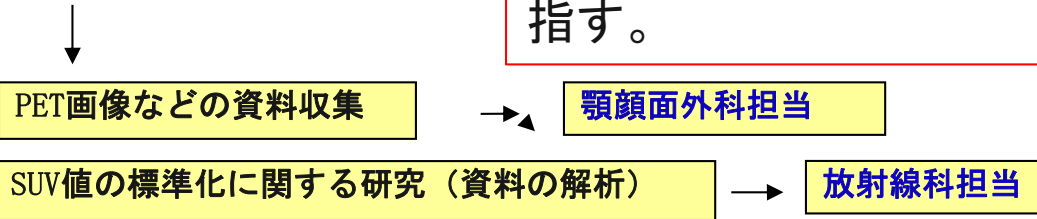
外部評価
日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科放射線学講座
教授 土持 眞 先生

研究計画と研究体制

がんの制御は人類の夢である。がん制圧には集学的な研究・治療体制の構築が必要である。
本学は単科大であるため、治療には制約があるが、研究分野においては様々な専門家が在籍する。
基礎と臨床の融合、分野・講座横断的な研究でがん制圧を目指す。

研究開始後1年目

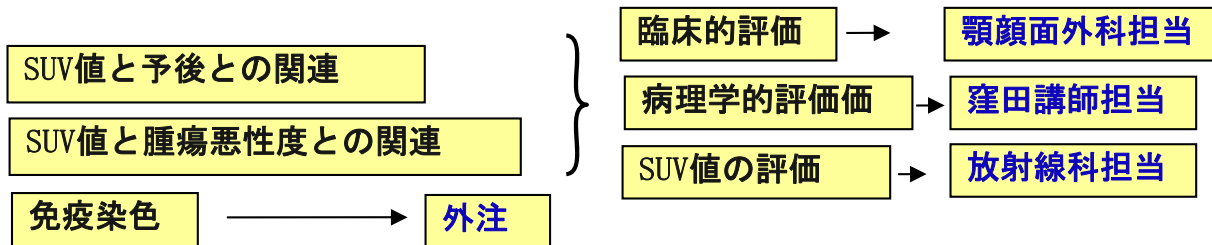
SUV値の標準化に関する研究
既存資料の使用



研究開始後2～3年目

NHO栃木医療センターなどとの共同研究を検討

SUV値と腫瘍悪性度との関係およびSUV値に影響を及ぼす要因の解析 既存資料の使用



頸部リンパ節転移に対する正診率向上に関する検討 新たなサンプルの採取



PDCAサイクル

P:計画

プロジェクトリーダー
分野別サブリーダー
による検討

放射線分野
外科分野
病理分野
生化学分野

D:実行

プロジェクトリーダーによる統括
分野別サブリーダーによる研究遂行
サンプル: 既存データと新たな検体を使用
フィールド: 多施設共同研究を検討

C:評価

A:改善策

評価委員会での審議
改善策を立案
自己評価
改善策を立案

1. 内部評価

- ・プロジェクト報告会(外部評価者を含む)
- ・ブランディング研究大学院委員会

発表および成果報告書より研究計画(独創性・実現性・貢献度・発展性)の達成度について評価

2. 一般的評価

- ・学会発表数、論文数、商業雑誌やマスコミでの取り上げ度

3. 自己評価

- ・スタートアップミーティング、進行状況報告会を開催